

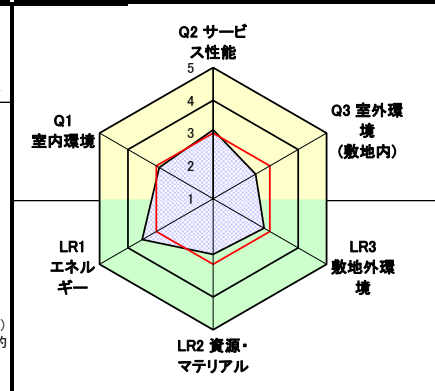
CASBEE® 名古屋

評価結果

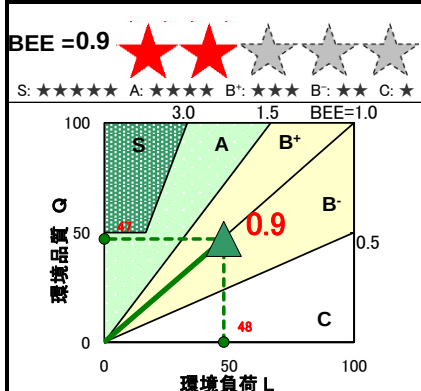
■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2020年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エルプレイス今池新築工事	階数	地上14F
建設地	愛知県名古屋市中千種区今池四丁目519番、520番、521番	構造	RC造
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年1月 予定	評価の実施日	2025年4月25日
敷地面積	974 m ²	作成者	
建築面積	525 m ²	確認日	2025年4月24日
延床面積	6,372 m ²	確認者	

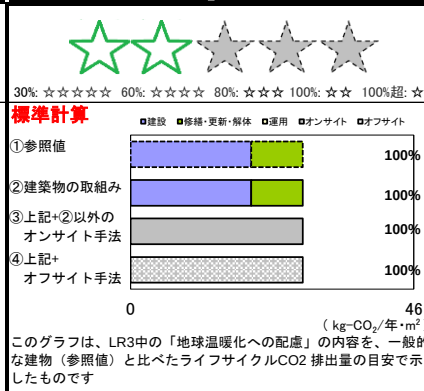
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



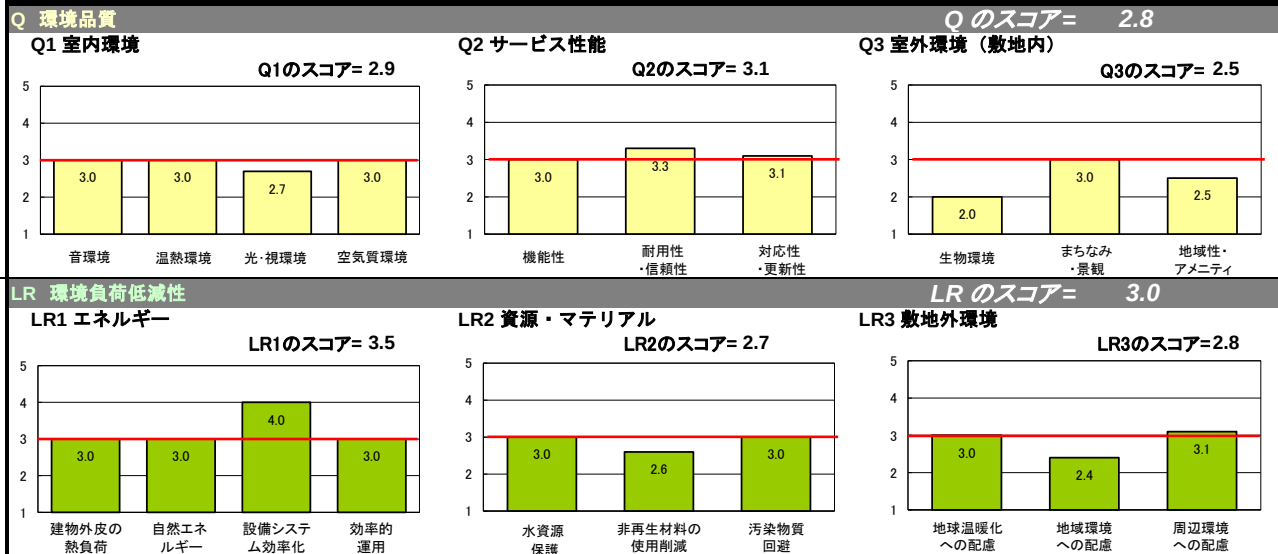
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項		
総合	これは、CASBEE名古屋による評価である。	その他 特になし
Q1 室内環境	住戸の主要居室の昼光率を0.65%、共用部を0.45%確保した。	Q3 室外環境(敷地内) 外構緑化指数を19.8%とした。
LR1 エネルギー	住戸全戸でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.88になるように一次エネルギーの消費を抑えた。	LR3 敷地外環境 隣等間隔指数0.66を確保し、夏季に敷地を通る風が回復しやすいようにした。
Q2 サービス性能	各階の階高は3.0m以上とし階高に余裕を持たせた。	
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を使用した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)エルブレイス今池新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

重点項目スコア = $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})}{\text{全体に対する重みの総和}}$ の総和

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。